

大都市に適用した非開削技術に期待する

キーワード 大都市



1. 経営計画2013と非開削技術

東京都区部の下水道は、明治17年以来約130年の歳月をかけて、今日の下水道を築き上げてきた。平成6年度末には普及概成100%を達成し、下水道局で管理する区部の下水道管の総延長は、東京都とシドニーを往復する距離に相当する約1万6,000kmにも及ぶ。下水道は、首都東京の社会経済活動やお客さまの暮らしを地下から支える重要インフラの一つとなっている。

下水道局は、昨年度「経営計画2013」を策定し、「お客さまの安全を守り、安心して快適な生活を支える」施策と、「良好な水環境と環境負荷の少ない都市の実現」に向けた施策を推し進めていくこととした。

これらの施策のうち、主に管路工事に係る事業内容について、具体的に述べる。まず、今後急増する老朽化した下水道管の再構築が挙げられる。法定耐用年数である50年を超えた下水道管の延長は、約1,500kmに達している。さらに今後は、高度経済成長期以降に整備された膨大な量の下水道管が耐用年数を迎える。今後20年間で耐用年数を超える下水道管が新たに約6,500km増加し、急速に老朽化が進行するため、下水道管の老朽化対策が喫緊の課題となっている。このため、ライフサイクルコストを勘案し、中長期的な再構築事業の平準化を図るなど、アセットマネジメント手法により計画的かつ効率的に下水道管の再構築を実施していく（図-1）。

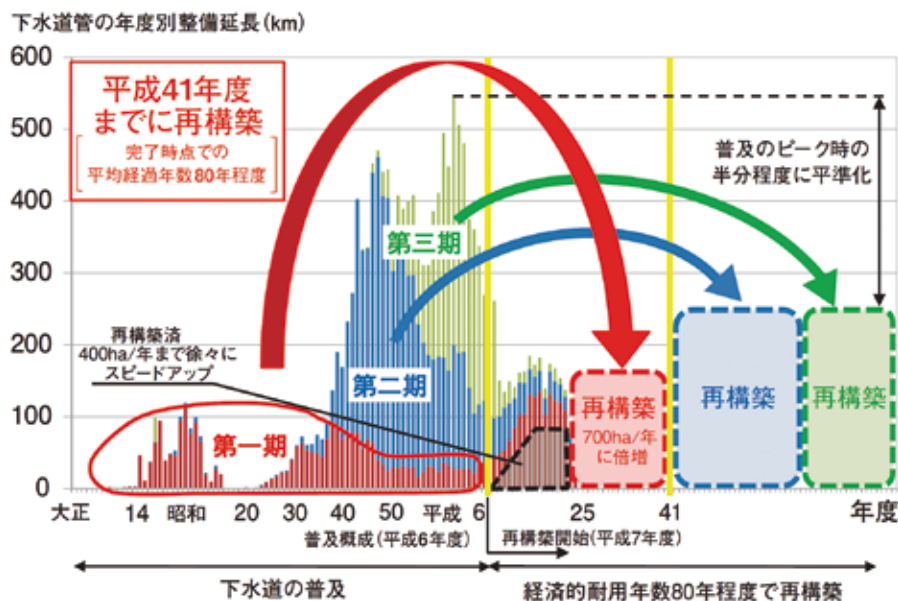


図-1 下水道管のアセットマネジメントのイメージ